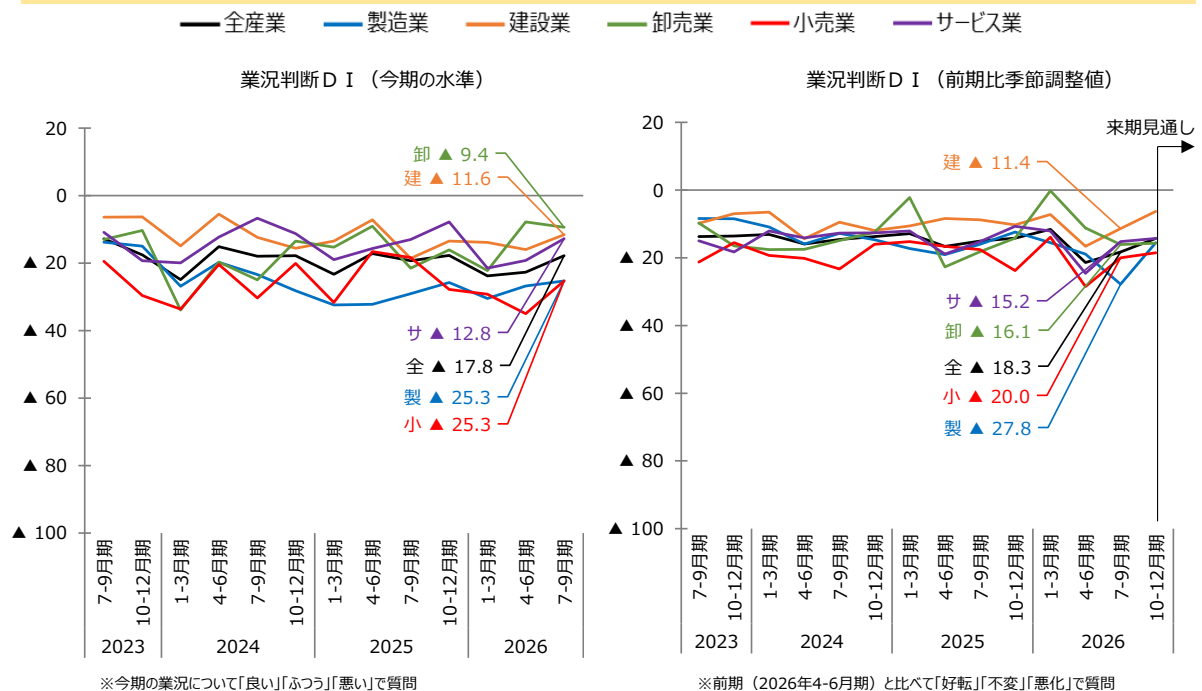


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 北海道

中小企業の価値を、
Be a Great Small.
中小機構
日本の原動力に。

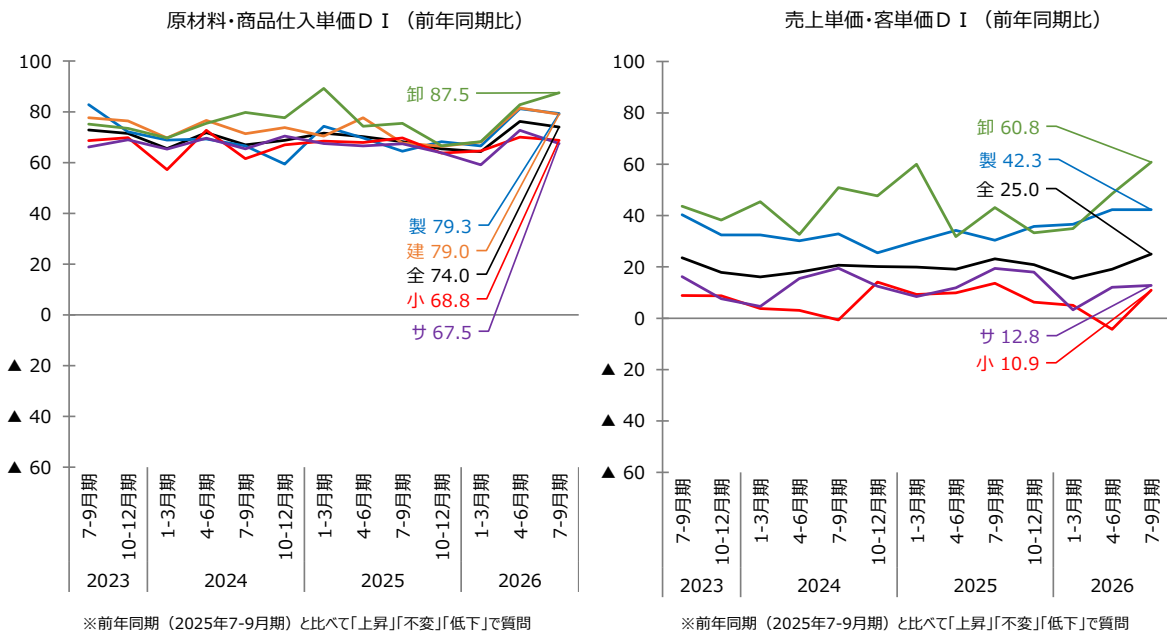
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より4.9ポイント増の▲17.8と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、建設業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.2ポイント減の74.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、サービス業、建設業、製造業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.9ポイント増の25.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、製造業で横ばいとなった。



＜調査概要＞ 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、北海道：725企業

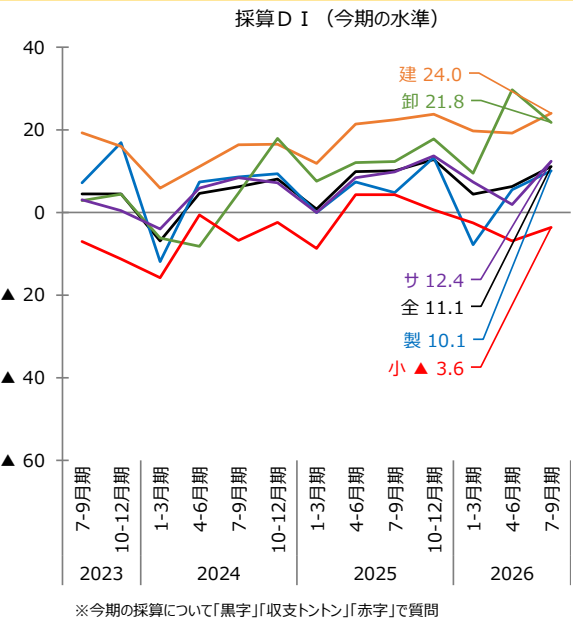
※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 北海道



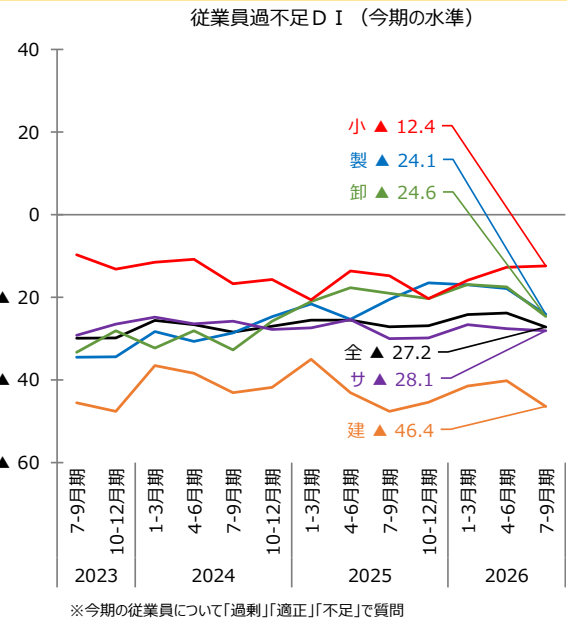
3. 採算

採算DIは、全産業で前期より4.8ポイント増の11.1と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.4ポイント減の▲27.2と4期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業でやや上昇し、卸売業、建設業、製造業、サービス業で低下した。



5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	7月～9月間は、生産の最盛期となる。現状、末端の消費動向が悪く（国内・輸出先）受注減少気味であるが、見込み生産を実施している。今後の消費動向に注意している。	製造業	段ボール箱製造業
	新幹線トンネル工事の請負があり、業況は良い状況である。	建設業	左官工事業
	今年度は受注が集中しており、業況は良好。しかし、次年度は受注減少が予想されるので、業績の低下が心配である。	卸売業	鉄鋼粗製品卸売業
	経費の増加は、販売原価としてようやく組み入れることができるような消費マインドになってきた。所謂売価を上げてでも許容される状況になってきたと感じる。利益率を上げることが可能になったと思う。	小売業	鮮魚小売業
	売上は減少しているものの、外注費、その他の経費を削減し、何とか利益確保している。今後、安定した経営のため、長期借入金を含めた資金繰りの強化が課題。	サービス業	その他の建物等維持管理業
見通し	10月開店の大手スーパーの影響を注視。消費税の食品減税等、変化に対応していかなければならない。	製造業	すし・弁当・調理パン製造業
	引き続き世界情勢が不安定な中、今後の経済状況により工事発注や利益にどのような影響が出るのか依然として見通せないと感じている。	建設業	鉄骨工事業
	地政学的リスク、為替リスクによる様々な価値の変動が止まらず、また、労働者不足など複数絡む大きな問題が生じている。先行きは見通すことが出来ず不安しかない。	卸売業	その他の建築材料卸売業
	8月に店舗兼住宅を購入し移転。10月にオープンを予定しており、資金繰りの好転が見込まれる。	小売業	果実小売業
	2025年度は前期比10%程度の増収となり、今年度も同水準の受注を確保する見通しで、業況は堅調に推移している。	サービス業	その他の土木建築サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)